日本語教材 教授過程

「前書き」

」ここに出した教材は、東南アジア學院で、使用してみたものである。學院での他の教材—小學國語讀本、ヨミカタ、等と重複しない様に、編集したものである。私の教材全部を、ここに出すわけに行かないので、その一部を、色彩を出しつつ、書いてみた。私の教材は、二十數種の既刊日本語關係教材から、集め、改作を施した個處も、かなりある。

ここに出した材料は、「舟の上と疊の上」—小學國語讀本巻五から、「狐と鶴」—正則日本語講座物語篇から、「タロウサンノ一日」「自作、「オジサンノ家」—自作、「ねずみのけつこん」—小學國語讀本巻二から「ユウビン屋サン」—自作、である。

教授過程は、全教材に亘つて書く事を止めて、教材三つに就いて骨子的事項のみを書いた。これが、基點になつて、活動するわけである。

舟の上と疊の上

ある人が、始めて舟に乘つた時、海が荒れたので、大そう弱つて居ました。そこへ、一人の水夫が、面白さうに歌を歌ひながら、來ました。

その客は水夫に向かつて、「こんなに海が荒れて居るのに、あなた方は、平氣なんですか。」とききました。 すると、水夫は、「平氣ですよ。舟は、私達の家ですから、毎日舟に乘つて居る位、面白くて愉快な事はありません。 私のおぢいさんもお父さんも、舟の上で死にましたよ。」と答へました。 「あなたのおぢいさんもお父さんも、舟の上で死んだのに、舟がこわくないんですか。」と、客が、ききますと、水夫は、「あなたのお父さんは、どこでおなくなりになりましたか。」と尋ねました。 「おぢいさんもお父さんも皆、疊の上で死にました。」と客が、答へました。水夫は「それでは、あなたも、疊の上がこわいでせう。」と言つて笑ひました。

本課に於て取扱ふべき語法的諸點、文法的注意點は、そんなに多數ではないが、相當に重要なものがある。 本課を教授した時には、タイ國人クラスであつたが、まだ、「ヨミカタ」「三」が終つた位であつた様に記憶して居るが、本課は、「小學國語讀本」「五」にある題材であるが、私は良き材料として、又、暑さに向かふ折でもあつたので、ユーモアを含んだ輕い材料として、當該クラスには少し難しい事は、覺悟して扱つてみた。

讀方ー新しい未知の漢字は、「荒れる」、「愉快」、「疊」であつた。これだけを教へておいて、一人の學生に讀ましてみたが、その後で私が範讀を與へ、もう一回全部で讀んでみた。 タイ國人は、日本語の發音がかなり難しい様である。本課にあるものでは、「始めて」、「尋ねました」及び、濁音を含む語全部は、くりかへしても、決して無駄でない。 私は、タイ國人日本語學習に於て、一課毎に、發音は自然に正統的になると考へて居たが、いくら時間が經つても、教師が注意して、日本の中等學校に於ける英語教育の様に、發音訂正矯正をしなければ、駄目だと氣付いたので、それ以後、發音矯正を注意してやつて居る。 直接法教授には、この様な點が、警戒すべき事の様に思はれる。 然し、いくら熱心に發音矯正を試みても、矯正不可能の様に考へられる諸點が、タイ國人日本語學習者には見える様である。 これは、勿論、タイ語の發音構成と日本語のそれとの相異に依るのであらう。 濁音がよく出來ないのは、タイ語にその素地がないのだらうと思はれるが、タイ語にも、確然とある。 この點私は、もつと研究を要すると思ふ。 餘り無理にこの點を強調して注意すると、種々の缺點ー語學學習ーのーが現れるのである。 一年以上も日本

語學習をやつて居るタイ國人、インドネシヤ人にも、つくづく日本語の發音は、難しいものと見える。斯様な點も、日本人教師は自己の外國語學習を想起して、同情と努力が肝要である。讀方教授には、前記以外の注意點、方法が、多々あるが、紙面には表現し得ない點があるので、この位にする。私は、毎課に於て、讀方、發音に關して、同一軌の方法は採つて居ない。この事は、語法的立場に於ても、同様である。歐米人の如くインテリ的でない南方人、又、その氣候的狀況故の南方特性を具備して居るタイ人、インドネシヤ人等には、單調が相當に影響して、語學の如く努力を要するものは、なかなか難しい様である。從つて、教師も大いに頑張つて行かないと駄目である。英米人に使用した教授法、支那滿洲人に使用した教授法などを、そのまま襲したら宜しくないといふ事を付言しておく。とにかく、私は讀方教授では、根本原理として、新文字への注意、學習者の一讀、教授者の範讀、發音矯正訂正演習、全体唱讀、學習者代表の再讀等を考へて居る。

文法ー色々と説明する前に、私が實際に教材として、學生に渡すプリントの「文法」を、そのまま、ここに寫してみる。

文法

(一)海が荒れたので、大そう弱つて居ました。毎日毎日暑いので、汗が澤山出ます。

でき物が出來たので、學校を休みました。

おいしいので、ずい分澤山食べてしまひました。

(二)面白さうにー面白い。暑さうにー暑い。嬉しさうにー嬉しい。

悲しさうにー悲しい。

一人の水夫が、面白さうに歌を歌ひながら、來ました。

ブーラナさんは、お父さんから手紙が來たので嬉しさうに讀んで居[redacted]ます。

(三)こんなに海が荒れて居るのに、あなた方は、よく平氣で居られますね。

暑いのに、上衣を着て居ました。

店にお菓子があるのに、賣つてくれません。

配給の切符がないから。

(四)毎日舟に乘つて居る位、面白くて愉快な事は、ありません。

日本で、東京位、大きな都會は、ありません。
お砂糖位、甘いものは、ありません。

(五) 一人の水夫が面白さうに歌を歌ひながら、來ました。
あなたは、ご飯を食べながら、話をしますか。
私は、黒板に字を書きながら、話をします。
ピアノをひきながら、歌へますか。

(六) 夏は、暑い（です）から、嫌ひです。
カセムさんは、タイ人だから、タイ語が上手です。
田中さんが行くから、私は行きません。

(七) おなくなりになる―なくなる。　お讀みになる―讀む。　お食べになる―食べる。
お立ちになる―立つ。
お聞きになる―聞く。
ビブン首相は、日本の新聞をお讀みになりますか。
(一) タイの音樂を、ラヂオでお聞きになつたことがありますか。

以上が私の行ふ語法解説の中心である。　徹頭徹尾、全課に亘つて、話法、會話で押通すのが、私の教室での方針である。　その題材も、學習者の心理に映ずるものが主であり、その生活環境が中心であることは申す迄もない。「始めて」、「に乘る」、「弱つて居る」、「平氣です」「ききます」、「がこわいです」、……といふ様な話は、一一、文例會話に依つて、語の運用を教へて居る。この様な事を念頭に置いて、全文の解説が濟むと、教師たる私と學生とが、前記の「文法」欄を讀みつつ、私が説明するのであるが、範例に依つて、後で例文を書かせるのである。

會話―文法欄の後には、私のプリントを見ると、「會話」といふのがある。今、これを寫してみると、

(一) あなたは、學校へ來る時、どこで省線に乘りますか。
(二) あなたが日本へ來た時、海は、荒れて居ましたか。
(三) 始めて、スキヤキを食べた時、どういふ味がしましたか。
(四) タイ國には、バンコツク位大きい都會がありますか。
(五) 地震と火事と、どちらが、こわいですか。
(六) タイ國の前の王様は、どこでお生まれになつて、どこでおなくなりになりましたか。

(七) この話を簡單に話して下さい。

既に本課解說中に行つたものと、この會話に出て來る語と重複するものがあることもあるが、これは、反つて結構である。この會話は、全部一緒に讀んで、後に一人一人が讀み、夫々が解答するが、時には、この解答を筆記させることも試みて居る。會話が終ると、時間の終りに、本課全体の唱讀をする。そして、プリントには、次の題材として、學生の宿題が課してある。今、それを寫して見ると、

作文

(一)始めて、(二)荒れる、(三)弱る、(四)面白さうに、(五)平氣です、(六)愉快な、(七)愉快です、(八)死ぬ、(九)がこわいです、(十)尋ねる、(十一)きく、(十二)……ので……、(十三)……のに……、(十四)……位……はありません、(十五)……ながら……、(十六)……から……、(十七)……だから……

この宿題も、大体自宅で書いて提出させるが、時には、氣分轉換のためにも、教室で書かせたこともあつた。單にこの宿題の作文を書いて來る事〻を要求するだけでなく、一應注意すべき事を注意、說明する。

これが肝要な事項の一つであらう。本宿題にある樣な、「荒れる」「弱る」、「尋ねる」の樣な動詞は、厄介物である。「……ります」、「……ます」の區別は、なかなか大事なものであらう。うつかりして居ると、「食べります」といふ形が出て來る。私は、日本語動詞全部といひ得る位の多數の「ル動詞」を調査したが、その表に依ると、「……ります」より「……ます」の方が數が多い事が判つて居る。然し、非常な大差といふ樣な事は認められて居ない。この「ル動詞」以外の動詞―「グ」、「ブ」、「ム」、「ヌ」、「ツ」、「ウ」、「ス」、「ク」、「……スル」、等の「短型動詞」と「長型動詞」の變化の原則を本課の樣な高い課題に入らない頃に、教へて置かないと、學生は困惑する樣である。私の言ふ「短型動詞」とは、一例で言へば、「飲む」之に對して、「長型動詞」とは、「飲みます」である。この樣に、宿題たる文作成では、當該課に現れた必要語、基本語の活用―文法語としての活用ではなくて―語運用の方法である―これが大切である。同樣に、語法で取扱つた諸點も注意して行く。學生が翌時間に提出した宿題は、赤インクで必ず訂正したり、範文を追加したりして返して來た。これは、なかなか、教師の根氣仕事だが、その效果は努力に決して損失

的でない。否、實に素晴しい結果を表示してくれてゐる。

考査ー宿題提出後、習つた課の書取、その地必要な考査を行つて居る。この時も、漢字だけを書かしたり、いつも、問題を板書したりせず、時に、口頭だけで行ふ事も大いに重要である。全課が終らなかつた場合には、次の時間に前の終つた所を復習的に、會話の形式で問答してみて居る。現在、學生の書いた宿題や考査の紙は、皆、返してしまつて持つて居ないので、殘念ながら、この教授報告に加へ得られない。

狐と鶴

森の中に、狐が一匹、住んで居ました。いつも、いたづらばかりして、ほかの者を困らせて居ました。ある日、森の中で、鶴に會ひました。狐は、「やあ、鶴さん、今日は。お元氣ですか。ずい分寒くなりましたね。今晩、どちそうしますから、私と一緒に、家へいらつしやい。」と言ひました。鶴は大喜びで、狐の家へ行きました。狐は、玄關の所で、「どうぞ、お入り下さい。」と言ひました。鶴は、「ありがとうございます。では、お邪魔いたします。」と言ひながら、狐の家に上がりました。しばらく待つて居ると、狐は、淺い大きなお皿に、おいしさうなごちそうを入れて、持つて來ました。そして、「さあ、お上がり下さい。大變おいしい物ですよ。」と言ひました。鶴は、「では、頂きます。」と言つて、食べようとしましたが、くちばしが長いので、よく食べる事が出來ません。大變困つて居ました。すると狐は、「鶴さん、あなたは、このごちそうが嫌ひですか。」と言つて、鶴のごちそうを取つて、みんな食べてしまひました。鶴は、目をつぶつて、良い事を考へました。そして、「狐さん、今日は、大變ごちそうになりました。お禮に、明日、私が、ごちそうをしますから、家へおいで下さい。」と言ひました。狐は、「ありがとう。私は、食べる事が、一番好きですから、きつと、行きます。」と言ひました。

次の日に、狐は、鶴の家へ行きました。少しすると、鶴は、ごちそうを、大きなつぼに入れて、持つて來ました。そして、「さあ、どうぞお上がり下さい。」と言ひました。狐は、食べようとしましたが、つぼの口が小さいので、どうしても、食べる事が出來ません。困つて居ますと、鶴は、「狐さん、あなたは、このごちそうがお嫌ひですか。」

と言つて狐のごちそうを、すつかり食べてしまひました。

本課は、新民書館とかいふ書店發行の「正則日本語講座」から拔いたもので、勿論、原則的には、當書にあつた通りの文だが、所々教授上の理由から、變化を加へた。この事は、本報告にある他の教材ー「ねずみのけつこん」、「舟の上と疊の上」に就いても、同樣である。「舟の上と疊の上」の教材を教へたクラスより少し低いクラスに使つたのであるが、矢張り、暑さの來る時だつたので、面白いイソップの寓話を採つてみた。内容の難易にも依らうが、本課は、とても面白くて愉快な授業が出來た事を今でもハツキリ記憶して居る。「舟の上と疊の上」に於ける教授法と、方法には大した變化がないが、學生に與へたプリントは、「舟の上と疊の上」のプリントと少し趣きを異にして試みたので、それを考へてみよう。本課教授過程は、「舟の上と疊の上」と同じ形式で行つたので、プリントを全部寫すだけに止める。非常に面白い課だつたので、全体を讀んでしまふと、學生は、クスクス笑つて居た。つまり、大体の意味が取れた表現であつた。

文法

(一) いたづらーいたづらなーいたづらをする。
あの子供は、ずい分いたづらですね。
チヤラームさんは、いたづらをするのが大好きです。

(二) 森の狐は、いたづらばかりして居ましたか。
サムランさんは、毎日勉强ばかりして、ちつとも遊びません。
黑い靴ばかりで、赤いのは、一つも持つて居ません。

(三) 困らせるー困る、歸るー歸らせる。行くー行かせる。切るー切らせる。食べるー食べさせる、着るー着させる、集めるー集めさせる、來るー來させる、
狐は、ほかの者を困らせて居ました。

(四) 食べようとしますー食べる、着ようとしますー着る、走らうとしますー走る、歸らうとしますー歸る、書かうとしますー書く、讀まうとしますー讀む、立たうとしますー立つ、飛ばうとしますー飛ぶ、死なうとしますー死ぬ、吸はうとしますー吸ふ、落さうとしますー落す、泳がうとしますー泳ぐ、勉强しようとしますー勉强する、

鶴は、食べようとしましたが、食べる事が出來ませんでした。
走らうとしましたが、足が痛くて走れませんでした。
良い本があつたので、買はうとしましたが、お金が無かつたので、やめました。
昨日銀座へ行かうとしましたが、警戒警報が出たので、行きませんでした。
勉強しようとしたら、友達が遊びに來ました。

(五)

食べる事が出來ません—食べられません。 着る事が出來ません。
着る事が出來ません—着られません、 切る事が出來ます—切れる、 休む事が出來ます—休める、 行く事が出來る—行ける、 飛ぶ事が出來ません—飛べません、 飲む事が出來ません—飲めません、 吸ふ事が出來ます—吸へます、 立つ事が出來ます—立てます、
この洋服は小さくて、着る事が出來ません。
お金がないから、映畫を見に行く事が出來ません。
あの店のコーヒーは水の樣で、飲めません。

毎晩暑くて、眠れませんか。

(六)

このごろそうが嫌ひですか。
私は、アイスクリームが大好きです。
あなたは、バナナが食べたいですか。

(七)

みんな—すつかり—全部

(八)

私が、どちそうをしますから、家へおいで下さい。
寒いから、行きません。
昨日銀座へ行きましたから、學校へ來ませんでした。

以上が、プリントの寫してあるが、このクラスには、動詞、接續詞、中でも、自動詞、他動詞、受身型、使役型、可能型等に重點を置いて、「自動車が橋の上を通つて居ます」、「鳥が空を飛んで居ます」等も、注意してみた。自動詞、他動詞と之に聯關する助詞にも、かなり注意してみた。が、餘り一事に深入りして詳しくやり過ぎても駄目だといふ事も悟つた。
次に會話のプリントを寫してみよう。

會話

(一)狐は、どこに住んで居ましたか。
(二)この狐は、どんな狐でしたか。
(三)狐は鶴に、どこで會ひましたか。
(四)あなたは、日本の總理大臣に會ひましたか。
(五)狐は、鶴に會つた時、なんと言ひましたか。
(六)狐は、どんな入れ物に、ごちそうを入れて持つて來ましたか。
(七)鶴は、ごちそうをみんな食べましたか。
(八)鶴は、歸る時に、狐に何と言ひましたか。
(九)鶴は、お皿にごちそうを入れて持つて來ましたか。
(十)狐は、なぜ、ごちそうを食べる事が出來ませんでしたか。
(十一)この物語を簡單に書[illegible]をなさい。

この會話も、文法と同樣に、取扱ひ方は、「舟の上と疊の上」と軌を一にして居る。細部の點では、少々變化があるが。

次に作文を寫すと、

作文

(一)いつも、(二)いたづらをする、(三)いたづらな、(四)困らせる、(五)會ふ、(六)ずい分、(七)大喜びで、(八)待つ、(九)困る、(十)つぶる、(十一)お禮に、(十二)きつと、(十三)すつかり、(十四)……ばかり……、(十五)……ようとします……、(十六)……事が出來ません、(十七)……から……

この作文の取扱ひも、前課「舟の上と疊の上」と同樣である。

タロウサンノ一日

タロウサンハ、マイアサ、六ジニ　オキマス。オキルト、スグ、ネマキヲ、ヌイデ、ヨウフクヲ、キテ、オフロバヘ、行キマス。六ジ十ブンゴロニ、カオヲ、アラビマス。タロウサンハ、ミヅデ、カオヲ、アライマス。六ジハンニ、アサゴハンヲ、タベマス。七ジハンニガツコウヘ、デカケマス。ゲンカンデ、ボウシヲ、カブツテ、クツヲハイテ、「オトウサン、オカアサン、イツテマイリマス。」ト言ツテ、デカケマス。タロウサンノウチカラ、ガツコウハ、チカイノデ、イツ

モ、アルイテ行キマス。八ジ二十分マイニ、ガッコウニ、ツキマス。センセイヤ、友ダチニ、「オ早ヨウゴザイマス。」ト言ヒマス。ベンキヨウハ、八ジカラ、ハジマリマス。ソシテ、十二ジ十分マエニ、オワリマス。タロウサンハ、ウチヘ、カエッテ、オ母サントイッショニ、オヒルゴハンヲ、タベマス。一ジカラ、二ジマデ、友ダチト、アソビマス。二ジハンカラ、四ジマデ、ベンキヨウヲ、シマス。五ジハンゴロニ、オ父サンヤ、オ母サンヤ、兄サンヤ、姉サントイッショニ、バンゴハンヲ、タベマス。八ジゴロ、タロウサンハ、「オトウサン、オカアサン、オヤスミナサイ。」ト言ッテ、ネマス。

本課を實際に使つたのは、ずつと前の事で今ハッキリ記憶にない事が多い。「舟の上と疊の上」「狐と鶴」を敎へたクラスとは全然別のクラスで扱つたが、骨子的方針は、既述の通り、會話中心、語法重點で行つてみた。大体の敎授過程は、前記のものと同軌だから、ここでも、又、プリントの寫しで濟ますと、

ブンポウ

(一) マイ ｛ アサ / ニチ / バン / シュウ / ゲツ / ネン

(二) オキマス（オキル）ーツマス（ネル）

(三) ｛ 一ジ / 四カ / 六ガツ ｝ ニ

(四) アメガ、フルト、サムクナリマス。
オカネガ、タクサン、アルト、ウレシイデスカ。
ベンキヨウスルト、ネムクナリマスネ。

(五) ネマキヲ、ヌイデ……ーネマキヲ、ヌギマス、ソシテ……
ヨウフクヲ、キテ……ーヨウフクヲ、キマス、ソシテ……

ボウシヲ、カブッテ……ーボウシヲ、カブリマス、~~……~~ソシテ……
クツヲ、ハイテ……ークツヲ、ハキマス、ソシテ……
「……イッテマイリマス。」ト言ッテ……ー「……イッテマイリマス。」ト言ヒマス、ソシテ……
タロウサンハ、ウチヘ、カエッテ……ータロウサンハ、ウチヘ、カエリマス、ソシテ……
「……オヤスミナサイ。」ト言ッテ……ー「……オヤスミナサイ。」ト言ヒマス、ソシテ……

(六) ゲンカン……クツヲ、ハキマス。
ギンザ……デ……※コレヲ、カヒマシタ。
フランス……ミマシタ。

(七) ハキマス（ハク）ーヌギマス（ヌグ）
トウキヨウ

(八) タイコク　ヘ　イキマス
ミツコシ

(九) アサ……ヲ、七ジニ、タベマス。
ヒル（ゴハン）……ヲ、十二ジニ、タベマス。
バン……ヲ、六ジニ、タベマス

(十) センセイーセイト、ガクセイ、

(十一) コーヒーヤパン、リンゴヤミカン、本ヤツクエ、
ペンヤエンピツ、

(十二) ハジマリマス（ハジマル）ーオワリマス（オワル）
ガッコウハ、八ジカラ、ハジマッテ、二ジニ、オワリマス。

(十三) ゴゴーゴゼン
一ジ……二ジ

(十四) 五ガツ……カラ……十ガツ　マデ
キヨウ　アサッテ
コトシ……ライネン

(十五) ネマス（ネル）ーオキマス（オキル）
ミヅ……アラヒマス。
エンピツ……カキマス。

(十六)
ハンカチ…………フキマス。
シヨウセン……デ……イキマス。
コツプ…………ノミマス。
オハシ…………タベマス。

カイワ

(一)アナタハ、マイアサ、ナンジニ、オキマスカ。
(二)ミヅデ、カ~~ホ~~オヲ、アラヒマスカ、オユデ、アラヒマスカ。
(三)アナタハ、一日ニ、ナンド、ハヲ、ミガキマスカ。
(四)ナンジニ、アサゴハンヲ、タベマスカ。
(五)アナタハ、イツ、日本ヘ、ツキマシタカ。
(六)アナタハ、日本人ノトモダチガ、アリマスカ。
(七)アナタハ、ベンキヨウガ、スキデスカ。
(八)コノガツコウハ、ナンジニ、ハジマリマスカ。
(九)キノウ、ウチヘ、ナンジニ、カエリマシタカ。
(十)アナタハ、ナンジカラ、ナンジマデ、ガツコウニ、ヰマスカ。
(十一)アナタハ、ダレトイツシヨニ、日本ヘ、キマシタカ。
(十二)アナタハ、ニイサンガ、アリマスカ。
(十三)アナタハ、ナンジゴロ、ネマスカ。

サクブン

(一)オキマス、(二)ヌギマス、(三)キマス、(四)行キマス、(五)アラヒマス、(六)タベマス、(七)デカケマス、(八)カブリマス、(九)ハキマス、(十)チカイ、(十一)イツモ、(十二)アルキマス、(十三)ハジマリマス、(十四)オワリマス、(十五)カエリマス、(十六)……トイツシヨニ、(十七)アソビマス、(十八)ベンキヨウシマス、(十九)ネマス、

ユウビン屋サン

私ガ、勉強ヲシテヰルト、ゲンカンデ、誰カガ、「田中サン。」ト呼ビマシタ。私ハ、「オ母サン、ドナタカ、イラツシヤイマシタヨ。」ト大キナコエデ、言ヒマシタ。オ母サンハ、「ハイ。」ト返事ヲシテ、ゲンカンノ方ヘ、走ツテ行キマシタ。ゲンカンノ戸ヲ、開ケテ見ルト、ユウビン屋サンガ、居マシタ。ユウビン屋サンハ、「速達デス。」ト

言ッテ、手紙ヲ、渡シマシタ。オ母サンハ、「ドウモ、ゴクロウ様デシタ。」ト言ヒマスト、ユウビン屋サンハ、「サヨウナラ。」トイッテ、戸ヲシメテカエリマシタ。

オジサンノ家

コノ前ノ日ヨウニ、私ハ、姉サントイッショニ、新宿ノオジサンノ家へ、行キマシタ。品川デ、ノッテ、東京デ、ノリカヘマシタ。シヨウセンハ、スイテヰマシタ。東京カラ新宿マデ、チヨウド三十分、カカリマシタ。新宿デ、シヨウセンヲオリテ、歩イテオジサンノ家ヘ行キマシタ。姉サンハ、オジサンノ家ノゲンカンノトヲ、アケテ、「ゴメン下サイ。」ト言ヒマシタ。オジサンハ、「ハイ。」ト言ヒナガラ、シヨウジヲ、アケマシタ。オジサンハ、ニコニコ笑ヒナガラ、「オウ、ヨク來タネ。サア、オアガリナサイ。」トオッシヤイマシタ。私達ガ、イスニ、コシカケテ、オジサント、話ヲシテヰルト、女中ガ、オ茶トオカシヲ、持ッテ來マシタ。オジサンハ、「ドウゾ、オアガリナサイ。」ト言ヒナガラ、オ皿ニ入ッテヰルオカシヲ、姉サント私ニ、下サイマシタ。私達ハ、「デハ、イタダキマス。」ト言ッテ、オカシヲ、食ベマシタ。大ヘンオイシイオカシデシタ。オジサンハ、「エハガキヲ、見セテアゲヨウ。」トオッシヤッテ、大キナ箱ヲ、持ッテイラッシヤイマシタ。京都ヤ大阪ノエハガキガ、タク山、アリマシタ。

ねずみのけつこん

ねずみの赤ちやんが、生まれました。だんだん大きくなつて、良い娘になりました。お父さんもお母さんも、大よろこびで、「本とうに、良い子だ。こんな良い子を、ねずみのおよめにするのは、おしい。世界中で、一ばんえらい方のおよめさんに、したい。」と思ひました。お父さんとお母さんは、そうだんして、お日様の所へ、およめにあげる事にしました。ねずみのお父さんは、お日様の所へ行つて、「私の家に、大へん良い娘があります。世界中で、一ばんえらい方に、あげたいと思ひます。一ばんえらい方はあなたです。どうぞ、私の族を、

もらつて下さい。」とたのみました。　お日様は、「ありがとうございます。　けれども、おことわりしませう。　世界中には、私より、もつとえらい人が、居ますから。」とおつしやいました。　ねずみのお父さんは、びつくりして、「それは、だれですか。」とたづねました。

お日様は、「それは、雲さんです。　いくら私がてつてゐても、雲さんが來ると、かくされてしまひます。　雲さんには、かなひません。」とおつしやいました。　ねずみのお父さんは、雲の所へ行つて、「世界中で、一ばんえらいあなたに、娘をあげたいと思ひます。」と言ひました。

雲も、ことわりました。　そして、「世界中には、私より、もつとえらい人が、居ますから。」と言ひました。　ねずみのお父さんは、びつくりして、「それは、だれですか。」とたづねました。　雲は、「それは、風さんです。　いくら私が空でいばつてゐても、風さんが來ると、吹きとばされてしまひます。　風さんには、かなひません。」と言ひました。

ねずみのお父さんは、風の所へ行つて、「世界中で、一ばんえらいあなたに、娘をあげたいと思ひます。」と言ひました。　風も、ことわりました。　そして、「世界中には、私より、もつとえらい人が居ますから。」と言ひました。　ねずみのお父さんは、「それは、だれですか。」とたづねました。　風は、「それは、かべさんです。　いくら私が力いつぱい吹いても、かべさんは、へいきです。　かべさんには、かなひません。」と言ひました。　かべもことわりました。　「世界中には、私より、もつとえらい人が居ますから。」と言ひました。　ねずみのお父さんは、「それは、だれですか。」とたづねました。　かべは、「それは、ねずみさんです。　ねずみさんに、がりがりと、かじられると、いたくてたまりません。」と言ひました。　ねずみのお父さんは、「なるほど、世界中で一番えらいのは、ねずみだ。」と思ひました。　それで、ねずみのお父さんは、自分の娘を、きんじよのねずみのおよめさんに、しました。